

<第 182 回> 平成 26 年 3 月 6 日 (木)

第 3 2 回卒業証書授与式に臨んで

校長 神戸秀巳

湘南の中心に位置し、数々の名所旧跡を有し、さらに日本一の秀麗富士山を眺めることもできる茅ヶ崎市南湖の地に、茅ヶ崎西浜高校が誕生して 34 年が経ちました。3 月 4 日に、第 32 回卒業証書授与式を実施し、308 名の卒業生の門出を祝いました。



正門付近



開式のことば (副校長)



卒業証書授与 (クラス別)



お祝いのことば (PTA副会長)



吹奏楽部
(演奏協力)



お祝いのことば(同窓会長)



卒業生のことば終了後



校歌斉唱(卒業生、職員)



校歌斉唱(在校生)

【学校長のことば(概要)】

私は平成23年4月に第11代校長として着任し、皆さんとともに3年間歩んでまいりました。3年間にわたる想いと思い出が私の頭と胸にぎっしりと積み込まれています。皆さんを一生懸命に育ててきた学年職員の喜びと苦悩、哀しみも見てきました。本日、この場に立ち、皆さんの顔を見ていると、それらのことが鮮明に浮かんできます。

「高校は3年間。しかし、卒業生は生きている限り。」とずっと言ってきました。皆さんには支えとなる茅ヶ崎西浜高校があり、一緒に時間を共有した仲間がいます。決して孤独ではありません。ぜひそのことをいつまでも忘れないでください。

高校生活最後のこの日に、心を込めて一つのメッセージを皆さんに贈ります。「努力は人を裏切らない」という言葉です。努力した人が必ず成功するとは限りません。しかし、成

功する人は努力をしています。

人生を競争に例える人がいますが、私は違うと思っています。競争は人よりも多いこと、早いこと、高いこと、遠いことなどが求められます。しかし、人生は「自分がいかに満足した、充実した日々を過ごせたか」が大切なことであり、ほとんどの場合、早さはそれほど重要な要素ではありません。

私はよく人生を電車での旅に例えて説明します。茅ヶ崎駅から東京駅に向かう時、ほとんどの人は東海道線を利用します。しかし、相模線に乗り、途中で小田急線に乗り換えて新宿に向かい、そこから東京駅に向かうことも可能です。場合によっては、相模線で八王子駅まで乗り続け、当初の予定を変更して長野県へ向かうこともありえます。当初の予定が変わることは「失敗」とは言いません。

もともと、人生には「これしか道はない」ということはあまりありません。江戸時代末期に生きた有名な坂本龍馬は「人の世には道は一つということはない。道は百も千も万もある。」と語っています。

視野が広まり、視点が引き上げられれば、「未来への扉」が開かれ、今までよりもっとワクワクするものが目にとまり、それを追究したくなったら、それはすばらしいことです。但し、自分が本気で選択した事実をしっかりと受け止め、自分で責任を負う覚悟を持たなければなりません。決して他人のせいにはしてはいけません。そのことから目をそらしてはいけません。

ここで、宮城県の友人から昨年送られたメッセージの中に載っていた、あるオリンピック選手に関する記事を紹介いたします。

アーチェリー選手だったF選手が出場した大会の最終選考会は、記録的な豪雨の中で開催された。生き残りをかけた正念場での最後のショット。F選手の眼鏡に雨のしぶきがかかり、何度も狙いを定め直さなければならなくなった。残り数秒となって狙いが定まらないうちに放った矢は大きく的はずれ、落選。彼はタオルに顔を埋めて泣いた。しばらくして立ち上がると、雨がやまぬ中、彼は関係者一人一人に頭を下げて回った。敗戦の直後に彼が見せたのは、最悪の状況で戦わせられた恨みではなく、過酷な天候下で大会を運営してくれた裏方への感謝だったのだ。その彼が、敗北の翌日から対策に動く。それは、ツバの長い帽子を買い、練習からかぶるという極めてシンプルなことだった。「これでどんな雨でも眼鏡は濡れなくなりました」。その後の大会でF選手がオリンピックの切符を手にした時、協会関係者は心から彼を祝福したという。

今読みあげたアーチェリーのF選手のように、「体験を経験に変えること」「知識を知恵

に変えること」が重要です。体験と経験は何が違うのでしょうか？知識と知恵は何が違うのでしょうか？どちらも「気づき」が加わっています。そうです。いつも言っている「前進のためのキーワード」＝「本気」「実践」「気づき」の「気づき」です。同じことをしても「気づく」かどうかで、結果や状況が大きく変わってきます。

私たちは人を育てることについて、強い想いを持っています。ですから、茅ヶ崎西浜高校には「教育目標」の他に、「めざす学校像」「育てたい生徒像」など具体的な内容の想いがあります。これまで、私はわかりやすく「こてこての学校」と表現してきました。私たちはその実現に向けて頑張っています。「生徒は未来」との信念がありますので、決してあきらめるわけにはいきません。

先日ある保護者からいただいた手紙の中に、「西浜高校という温かく大きな器がなければ、我が子の今の姿はなかった」「氷が溶け始めたように、表情がどんどん柔らかくなった」「西浜高校を選んで良かったと思えることに感謝する」という言葉が含まれていました。教育に携わる者にとって、これほどありがたいことはありません。これほど幸せに感じることはありません。

私たちがここまで想いを行動に移してることができたのは、生徒はもちろんですが、茅ヶ崎西浜高校の教育活動に多大なご協力と後押しをいただきました保護者の皆様のおかげです。そして、茅ヶ崎西浜高校を支えてくださる地域の皆様の応援のおかげです。多くの皆様のご厚意に対し、職員を代表して、お礼と感謝を申し上げます。どうもありがとうございました。

最後に、本日ご列席いただきました保護者の皆様、そしてお忙しい中をご出席いただきましたPTA役員の皆様、同窓会会長様副会長様、県議会議員様、茅ヶ崎市立中島中学校教頭様、近隣自治会会長の皆様、学校評議員様、ご来賓の皆様に厚くお礼申し上げます。

本日は、ご卒業、誠におめでとうございます。



式場の様子



<番外編>

入場前の卒業生たちの「笑顔」